

「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」 事業報告書

1 / 2

団体名	特定非営利活動法人小樽青少年科学技術の芽を育てる会		
事業名	まちかど科学実験・工作教室		
実施期間	令和4年8月11日、14日、10月30日、11月20日、12月18日、令和5年1月15日		
事業の目的及び期待する効果	<p>令和元年度より始まった第7次小樽市総合計画における「まちづくり6つのテーマ」の最初に「子ども・子育て」があげられています。本事業は、小樽の子ども達に科学・工作体験をしてもらうことを通じて、令和2年度より順次始まる新学習指導要領で謳われている「論理的思考」や「知的探究心」など、これからの小樽を作る子ども達に必要な資質・能力を陶冶することを目的とします。</p> <p>昨年度新型コロナウイルス感染症の影響により、定員の減員、実施回数減を余儀なくされましたが、今年度の実験教室は定員の増員、木工教室は回数増の予定のため、より多くの子ども達への波及が期待されます。また、本事業を児童館や美術館を会場として行うことにより、小樽の子ども達に学校や家庭以外にも、楽しく過ごせる場所があることを知ってもらい、「小樽の子ども達の居場所作り」の一助となることも目的に実施します。</p> <p>本事業では、学校の授業では材料・器具の入手や実験・工作後の後始末の点などで取り上げにくいテーマ（液体窒素・ドライアイスを使った極低温での科学現象、木工工作）を取り上げます。子ども達一人ずつに実験や工作の材料・器具を用意することによって、「自分の力で出来た」、「実験やものづくりで楽しかった」という「成功体験」を通して、筋道立てて物事を考える「論理的思考」の習得と、もっと学びたいという「知的探究心」の醸成が期待できます。また、美術館における工作教室の際には、美術館や併設する文学館の展示を観覧することも同時に行うことにより、新しい発想を得る手がかりにしてもらい、子ども達が小樽に関する文化芸術に親しむ新たな機会の創出も期待されます。</p>		
実施額	事業費	331,854 円	助成額 275,487 円
事業内容	<p>本事業では、小・中学生・高校生を対象に実験・工作教室を、令和4年8月から令和5年1月の期間において、計6日間(8月14日以外は、1回の教室は、同内容で午前と午後の2回実施、延べ10回)開催しました。</p> <p>8, 11, 1月には木工工作教室(会場:小樽市立美術館)、10, 12月には科学実験教室(会場:小樽市とみおか児童館)を行いました。</p> <p>第1回(工作教室1回目):美術館に展示されている絵画を観覧後に、小樽の自然や建築物のイメージを木工工作として表現・作製してもらいました。3回実施</p> <p>第2回(実験教室1回目):ドライアイスの不思議な性質を調べながら、霧箱を参加者の手で作成し、宇宙線の観察を行い素粒子について学んでもらいました。</p> <p>第3回(工作教室2回目):美術館に展示されている絵画を観覧後に、小樽の秋から冬の季節のイメージを木工工作として表現・作製してもらいました。</p> <p>第4回(実験教室2回目):液体窒素を用いて低温における物質の変化をテーマに、実験を行い、物質の三態について学んでもらいました。</p> <p>第5回(工作教室3回目):美術館に展示されている絵画を観覧後に、干支(ウサギ)のイメージを木工工作として表現・作製してもらいました。</p> <p>本事業は、必要な機材や試薬等を全て当団体で準備することで、参加者の持参物等は必要なく、気軽に科学体験、木工工作をできるようにと考えて実施しました。</p>		

月日	内容	想定事業効果 (参加人数等)	事業効果 (実績)
8月11日、14日	第1回「まちかど科学実験・工作教室」 まちかど子ども木工アートスタジオ 2022 夏	36人	32人
10月30日	第2回「まちかど科学実験・工作教室」 ～低温を体験しよう①～ ドライアイスで宇宙線を見てみよう！	12組(最大24名)	15組(22名)
11月20日	第3回「まちかど科学実験・工作教室」まちかど 子ども木工アートスタジオ 2022 秋	24人	23人
12月18日	第4回「まちかど科学実験・工作教室」 ～低温を体験しよう②～ 液体窒素で実験してみよう！	12組(最大24名)	15組(19名)
1月15日	第5回「まちかど科学実験・工作教室」まちかど子 ども木工アートスタジオ 2023 冬	24人	24人

○事業評価について

1. 事業の目的の達成度

実施した各回とも、全参加者が科学実験、木工工作の作品制作を最後まで完成・実施することができた。本事業では、科学実験教室では、「どうしてこうなるのか」、木工工作教室では「どうすれば自分が考える形が表現できるか」という「解答例・作成例」を用意することなく、自ら考え、テキストに書き込んでもらう時間も設けた。この結果、講師が教えるのではなく、自分で実験の結果を予想しながら実験を行う・頭の中のイメージを試行錯誤しながら表現する・他の人の意見を聞くという「自ら考え、検証する」能動的学修経験を積めたのではないかと考えている。これらのことから、本事業の目的である子ども達が、「自分の力で出来た」、「実験やものづくりで楽しかった」という「成功体験」を通して、筋道立てて物事を考える「論理的思考」の習得と、もっと学びたいという「知的探究心」を醸成することがおおむね達成できたと考えている。また、各回参加者には、市立美術館やとみおか児童館を初めて利用したと答えた児童が今年度も複数名おり、小樽の市立文化施設を知ってもらうことにより、「小樽の子ども達の居場所作り」の一助となることも達成できたと考えている。

2. 参加した方々や、周辺の方々の満足度

各回の教室終了後に、参加した子ども達、参観した保護者にそれぞれアンケートを実施したところ、子ども達・保護者ともに87%が、「また参加したい」・「また参加させたい」と回答した。

このことより、参加者が各回の体験教室に満足し、十分な満足度が得られていると考えている。昨年度満員で参加できなかったのが、今年度はすぐに申し込んだというお話を頂き、一昨年度、昨年度から継続している効果も出ていると考えている。

3. 今後の事業について

今後の事業については、助成が終了後も新しいテーマを取り入れながら来年度以降も教室を継続して行いたいと考えている。今年度同様に、三密回避や新北海道スタイルを遵守し、より大勢の子ども達が安心して参加できるように一層工夫しながら本事業を続けていきたいと考えている。